

本陣等々力家 再生・活用事業

本陣等々力家、安曇野の時をつなぐ——受け継ぐ伝統、新たな価値への扉



本事業提案の概要

本陣等々力家、安曇野の時をつなぐ——受け継ぐ伝統、新たな価値への扉

基本方針 1

伝統を守り、未来へつなぐ
文化財保全と
地域の誇りの創出

基本方針 2

新たな価値を創造し、
観光と地域経済を活性化する
交流拠点の形成

実施方針

○実施方針 1「歴史的価値を最大限に活かした保全活動」

- ・建築物と庭園を一体的に保全し、主屋や蔵、庭園の調和を尊重した修復を実施。
- ・地元職人や伝統技術を活用し、文化財価値を向上させるとともに地域文化の技術継承を推進。
- ・耐震補強や防災計画を策定し、安全性を確保。省エネ技術を導入し環境にも配慮。

○実施方針 2「地域住民と共に進める文化財保全」

- ・市民参加型の清掃や維持管理活動を促進し、文化財保全の学びの場を提供。
- ・小中学校や大学と連携し、修復作業を「生きた教材」として活用。
- ・地元住民が集う場所として本陣等々力家を開放し、一体感を醸成。

○実施方針 3「地域文化の発信拠点としての活用」

- ・地域文化の発信拠点としての体験イベントを開催。
- ・本陣等々力家を中心に観光ルートを構築し、地域全体の観光価値を向上。
- ・多言語に対応したデジタルツール等の活用。

実施方針

実施方針 1「高付加価値観光と交流拠点の形成」

- ・国内外の高付加価値観光客を誘致する複合型交流拠点として利活用。
- ・地域の自然、伝統、文化を取り入れ魅力ある宿泊や飲食機能を導入。

実施方針 2「地域文化体験と経済振興の推進」

- ・屋敷林散策、地元食材を利用した料理教室など地域文化を体感できるプログラムを提供。
- ・地元産品を扱う小売店舗を設置、工芸品や農産物の販売を通じて地域経済の活性化を図る。
- ・地域の事業者と連携し、季節ごとのイベントを開催し、観光客と地域住民の交流を促進。

実施方針 3「公民連携と持続可能な運営」

- ・公民連携により、イニシャルコスト、運営コストを抑制した持続可能なスキームを構築。
- ・多言語対応ガイドやデジタルツールを導入し、訪日外国人観光客の利便性を向上。
- ・観光・宿泊・体験・小売を一体化させ地域ブランドを強化し、安曇野市全体の経済活性化を図る。

上位計画の整理及び課題と本事業との関連性

上位計画の整理

第2次安曇野市総合計画

将来ビジョン

「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」

(古民家再生・活用に関連性の高い施策)

- 誰もが活躍する共生のまち「歴史・文化遺産の継承」
- 選ばれ続けるまち、安曇野「商工業の振興」
- AZUMINOブランドの発信「生産振興と販売力の強化」、「市内事業者の経営強化」、「戦略的な観光プロモーション」、「アウトドア・スポーツを核としたまちづくり」、「自然環境の保全」
- 文化・芸術中核都市の実現「文化・芸術活動の推進」
- アウトドア・スポーツの聖地「戦略的な観光プロモーション」

第2次 安曇野市観光振興ビジョン

観光振興ビジョンコンセプト

「また行きたい、選ばれ続ける観光地 安曇野」

○安曇野市観光の特徴

- 日本屈指の人気を誇る山岳の麓に位置している
- 多彩な観光資源を有している
- リピーターの割合が多い

○観光産業における課題

- ▲ 滞在時間が短く市内消費額が少ない
- ▲ 観光エリアが特定のエリアに偏る
- ▲ 新しい層の開拓や市内調達の増加が必要

観光振興ビジョンにおける施策と本事業での取り組み事項

持続可能な観光地の形成

- IT技術を活用、業務のマルチタスク化で運営コストを抑制
- 地元スタッフを積極採用し、観光産業の地域還元を促進
- 長期滞在型観光を推進し、宿泊日数を増やすことで観光消費額を向上
- 地域経済の持続可能性を高め、安曇野市の観光地としての価値を向上

戦略的な観光プロモーション

- 自社ホームページを開設し、宿泊施設と観光資源を発信
- 国際的なネットワークを活用し、旅行会社やOTAと提携して安定集客を確保
- 歴史的建造物を活かした高付加価値イベントを実施
- 海外インフルエンサーを活用し、安曇野ブランドの認知度向上を図る

地域独自の観光資源の活用

- 歴史的建造物を改装した宿泊施設等の観光拠点を活用
- 地元食材を活かした古民家レストランを併設し、観光客や市民の利用を促進
- 文化・芸術活動を活性化し、新たな観光資源として発信

本事業の取り組みイメージ

以下の取り組みにより、地域への波及効果を図ります

本陣等々力家を核とした地域独自の魅力の掘り起こしと発信

体験型
コンテン
ツ



回遊型
観光



地元住民との協力体制の強化

雇用促
進



デジタル技術の活用/インフルエンサーマーケティングの実施

デジタル
技術の
活用等

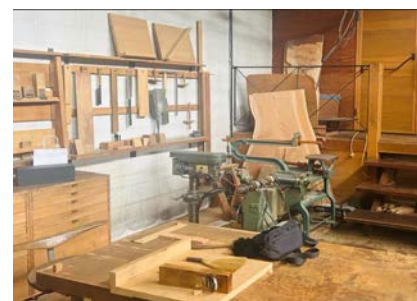


持続可能な観光施設の運営

地元産
品の活
用



リサイク
ル材の
活用



基本コンセプト及び事業戦略

メイン ターゲット

- 国内旅行者
- インバウンド旅行者
- 安曇野市の地域市民

マーケティング

- 施設の情報だけでなく、安曇野市内の観光施設、食など観光地としての魅力発信を目的とした自社ホームページを開設する
- 地元企業・団体の招待や会合、個人のお祝い法事の場合としてニーズの高い地元食材を活用したレストランを強みとしてPRする
- ルレ・エ・シャトー等の人脈を活用した国内外の旅行会社、国内外のOTA、市内企業との法人契約を推進することで安定的な集客を図る
- 歴史的建造物を活かしながら、安曇野市らしい素材や調度品など域内調達、内装に取り込む
- 等々力家の歴史的・文化的価値を国内外に発信、安曇野ブランドを全国・世界に発信する

サービス 設備

宿泊エリア

- ✓ 本陣等々力家の歴史を身近に感じながら、日本の本物の文化に触れられる客室
- ✓ 歴史的な文化財の趣をそのまま活かす

レストラン等

- ✓ 地域の自然、伝統、文化を取り入れ魅力ある宿泊や地元食材をメインとしたレストラン・カフェ
- ✓ その他、地域の交流促進を図るエリアとして利活用

文化・交流促進エリア

- ✓ 地域の事業者と連携し、マルシェや季節ごとのイベントを開催し、観光客と地域住民の交流を促進

オペレーション

- インバウンド誘客で実績のある宿泊施設運営会社が関与することにより、安定的・効率的なオペレーションを実現する
- フロント業務やサービス、パブリック清掃、予約、管理などをマルチタスクで行うことで省力化を図り、ITなど技術を利用することで、イニシャルコスト、運営コストを抑制した持続可能なスキームを構築
- 安曇野市の魅力を広く発信し、来訪を促すきっかけを創出する
- 地元スタッフを積極的に採用することにより、雇用創出に貢献する
- 地域のアクティビティ事業者、観光事業者と連携し、安曇野市での過ごし方を提案するコンシェルジュサービスをお客様に提供。安曇野市内の立ち寄り地点を増やし、滞在型拠点として2泊以上の宿泊を増やす。市を滞在型の観光地として転換を図り、域内観光消費額を向上させる

ゾーニング（案）

宿泊エリア

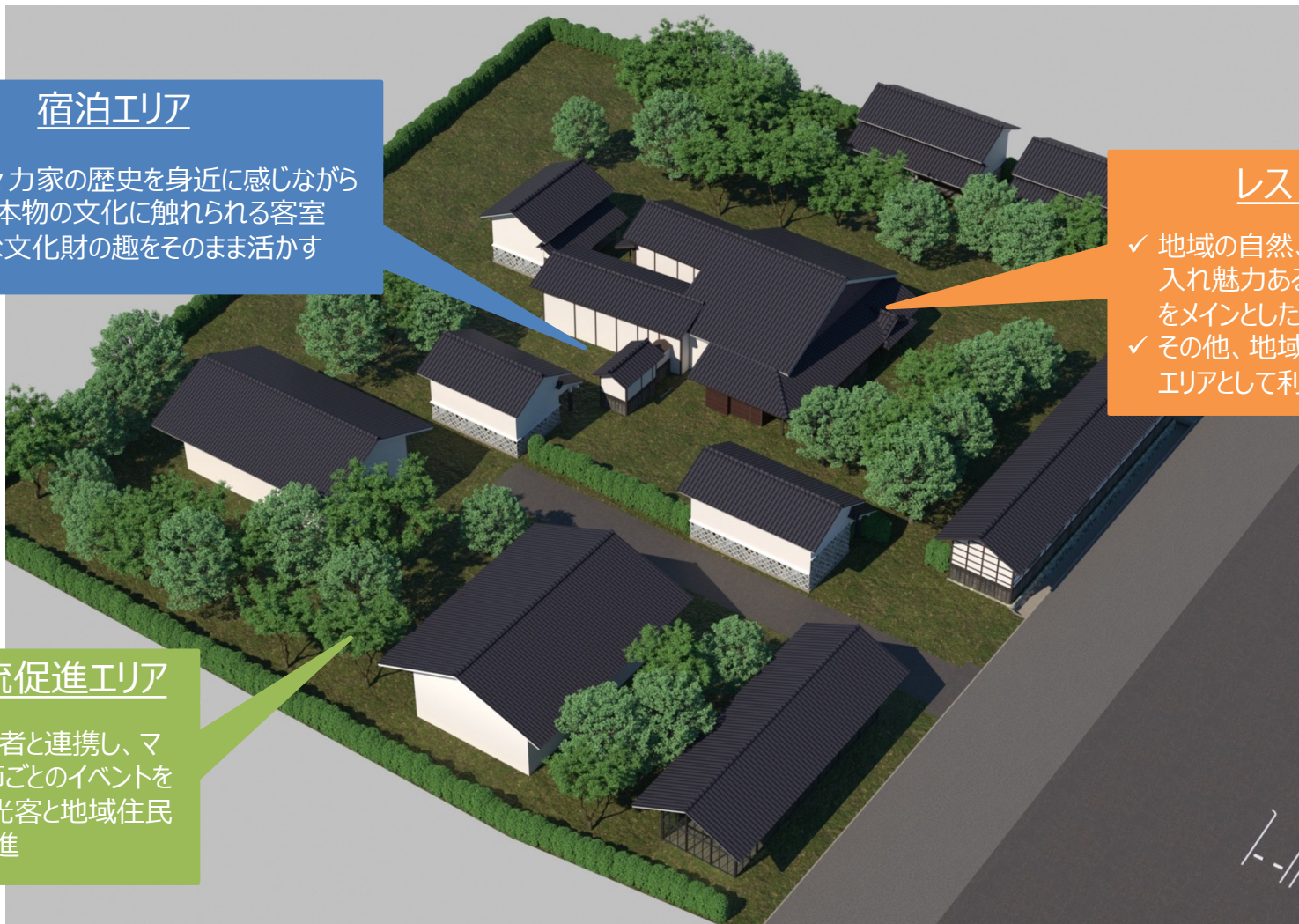
- ✓ 本陣等々力家の歴史を身近に感じながら、日本の本物の文化に触れられる客室
- ✓ 歴史的な文化財の趣をそのまま活かす

レストラン等

- ✓ 地域の自然、伝統、文化を取り入れ魅力ある宿泊や地元食材をメインとしたレストラン・カフェ
- ✓ その他、地域の交流促進を図るエリアとして利活用

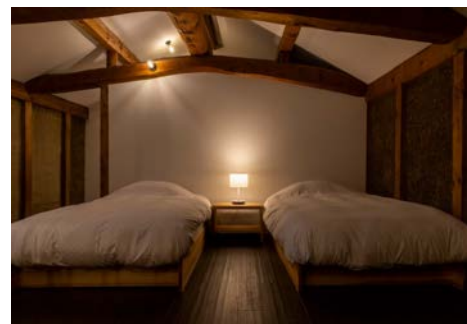
文化・交流促進エリア

- ✓ 地域の事業者と連携し、マルシェや季節ごとのイベントを開催し、観光客と地域住民の交流を促進



施設コンテンツ概要

宿泊エリア



文化交流促進エリア



レストラン等



本件に関連する事業実績（1／3）

グループ内の4施設は国の登録有形文化財に登録された建物を含み、保存だけでなく活用することにより新たな価値の発信、地域経済への貢献をめざしています。これらの施設には多くのインバウンド高付加価値層のお客様にお越しいただいています。

Satoyama villa DEN / 宿泊施設 2019年開業



扉グループでは2019年より「里山再生プロジェクト」として、豊かな自然と生活が残る**松本市内の里山に位置する古民家を改修し宿泊施設として運営開始**。第一弾として松本市中山に位置する築100年以上の古民家を改修し、民泊宿として営業を行っている。オーガニックガーデンやBBQスペースも併設し、豊かな自然を感じながら宿泊できる場所として県内外のご家族や友人グループに人気。

Satoyama villa 本陣 / 宿泊施設 2020年開業



「里山再生プロジェクト」の第二弾として、**松本市四賀地区にある「旧小澤家本陣」の建物を改修し、2020年に宿泊施設として運営開始**。旧江戸街道保福寺宿に位置し、かつて松本藩主が参勤交代の際に使用した建物（当時の建物は明治時代末期の火災で焼失、現在の建物は大正時代に再建されたもの）。2021年7月には**国の登録有形文化財**となる。

松本丸の内ホテル併設「アルモニービアン」/ 宿泊施設



松本城近くの大名町に位置する1937年に建てられた「旧第一勧業銀行」（現：アルモニービアン）は2007年に**国の登録有形文化財に登録された建物で、現在はアルモニービアンとして結婚式場ならびに飲食施設として運営**。松本市のシンボルの1つとなっています。

ヒカリヤ ニシ・ヒガシ / レストラン 2006年開業



築130年以上、松本市東町にあった**名門商家「光家」の建物を改装し、日本料理「ヒカリヤヒガシ」、フレンチレストラン「ヒカリヤニシ」として運営**。建物の持つ雰囲気が高く、結婚式など特別な時間を過ごす場所として活用。建物は2010年に**国の登録有形文化財**への登録。ヒカリヤニシは、2014年に世界的なホテル・レストラン組織である**ルレ・エ・シャトーに厳格な審査基準をクリアし加盟**しました。

本件に関連する事業実績（2／3）

2008年に明神館、2014年にヒカリヤニシがホテル・レストランの世界的な会員組織「ルレ・エ・シャトー」への加盟が認められ、世界品質のサービスとその土地の魅力を掌握した料理で、インバウンド高付加価値層のゲストを迎えているほか、地域住民と連繋した持続可能な取り組みを実施しています。

扉温泉 明神館／宿泊施設 1931年創業



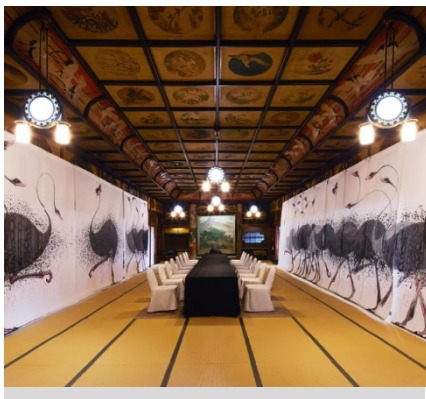
標高1,050m八ヶ岳中信高原国定公園の中に佇む一軒宿・明神館。周囲には豊かな自然以外何もなく、聞こえてくるのは川のせせらぎだけという「和のリゾート」。厳格な審査をクリアしたホテル・レストランだけが加盟を認められるルレ・エ・シャトーに2008年に明神館が加盟。
国内のみならず多くのインバウンド高付加価値層のお客様が来訪。

SATOYAMA FARM DEN+／就労継続支援B型事業所（2024年）



「Satoyama villa DEN」に隣接するいちごハウス等で、障害者の方へ軽作業や就労訓練の機会を提供するなどの就労系障害福祉サービスをおこなう就労継続支援B型事業所「SATOYAMA FARM DEN+」を2022年にオープン。**事業所は歴史ある古民家の長屋門をリノベーション。**利用者さんが育てたいちごはグループ施設で利用され好評です

マツモト建築芸術祭（2022年・2023年・2024年）



2022年に第1回を開催した「マツモト建築芸術祭は、**当社の文化財の建物を含む20箇所の名建築と現代アートの作品を組み合わせ展示。**松本の街の魅力を再発見し、地方でも一流の芸術に触れる機会を提供。予想を超える6万人超の方々にご来場頂いた。多くのボランティアにもご協力いただき、地域の皆様を巻き込んだ地域貢献に取り組んでいる。

国宝松本城プレミアムディナー（2023年）



観光庁の「観光再始動事業」の一環として、「ルレ・エ・シャトー」と協力。世界各国から2日間で80名のゲストが来場。信州の食文化と食材を世界に発信する目的のもと、各地から集まった9名のシェフがそれぞれ信州の食材を使用した2日限りの9品のコース料理を提供。ライトアップされた**松本城の天守閣を見上げる特設会場の中で、トップシェフの共演が実現しました。**

本件に関連する事業実績（3／3）

地域経済、自然環境、歴史文化の調和を図りながら、持続可能な観光地モデルの確立をおこなった当社の取り組みが認められています。

「第8回ジャパン・ツーリズムアワード観光庁長官賞」受賞（2024年）



日本観光振興協会・日本旅行業協会（・日本政府観光局（JNTO）が主催。受賞選考ポイントとして、『**地域経済、自然環境、歴史文化の調和を図りながら、持続可能な観光地モデルの確立を目指している好事例**』である。観光資源の多様化と地域活性化を図ると共に福祉の推進も目的とし、実績が着実に伸びている点』が挙げられています。

「ウェルネスディステーションアワード2024」受賞（2024年）



このアワードは、心と身体を健康にする新たな観光形態としてのウェルネスツーリズムの魅力的な観光地や観光事業者を表彰するものです。受賞選考ポイントとして、**その土地や文化に根付く「生活の知恵」をベースとし、北アルプス・信州の「自然の力」を高めることを目的とした、本格的なウェルネスステイプランを展開している点**が挙げられています。

信州ブランドアワード2021 NAGANO GOOD DESIGN部門大賞受賞



「信州ブランドアワード」は信州のブランド力向上に貢献したブランドとデザインを長野県の産学官が協働して選定・表彰する事業です。当社グループの**文化財・古民家活用の取組は地域課題を解決し、地域の歴史を紡ぎ、価値のある建築物を活用するモデルであり、農山村地域での雇用の創出なども含めて「地域をデザインする」取組として評価**いただきました。

ルレ・エ・シャトー



1954年に発足した**ルレ・エ・シャトーは世界中の厳選された580 のホテルとレストランが加盟する協会**です。ルレ・エ・シャトーは、強い信念を持ち、お客様と心のこもった関係を築きたいと願う個人経営のホテルオーナーやシェフによって支えられています。2014年にユネスコで宣言したルレ・エ・シャトーのヴィジョンにもあるように、土地の歴史や環境の保護にも積極的に取り組んでいます。齊藤が日本・韓国支部長をつとめています。

事業の実施体制

歴史的建造物の取得

安曇野市

本施設の取得

運営者を中心とするコンソーシアム形成により安定的な実施体制を構築

【代表法人】
扉ホールディングス(株)

本施設の活用

降幡建築設計事務所
山共建設(株)
古民家・文化財改修
・再生に係る設計・施工

(株) アルファ
コンサルティング
プロジェクトマネジメント
・事業計画策定

地元事業者との連携により地域経済の好循環や魅力発信に貢献

芸術家
(安曇野市他)
作品提供/交流

契約農家 120社以上
(安曇野市他)
農産物

体験コンテンツ提供会社
体験コンテンツ造成/提供

タクシー会社
観光タクシー

地域の観光拠点
観光施設/酒蔵/美術館

文化人/ジャーナリスト
コンテンツ造成/発信

ポイント1

本事業を安定的に推進する実施体制を構築

- 地域密着型の安定的な事業実施体制
- 明確な業務分担による円滑な事業推進
- 複層的なモニタリング体制

ポイント2

各種会議体を通じて市との緊密な連携・協力体制を構築

- 市とのパートナーシップの構築・維持
- 地域企業と連携した地域活性化
- 事業への取り組みと地域への貢献